

平成20年11月5日発行

高知県安全安心

まちづくりニュース

(第4号)



発行
高知県安全安心
まちづくり推進会議
事務局 高知県文化環境部
県民生活・男女共同参画課
TEL 088-823-9319

平成20年全国地域安全運動期間中の取り組み

平成20年全国地域安全運動期間中(10/11~10/20)に行われた各地の取り組みをご紹介します。この他にも各地で様々な活動が行われています。(事務局では、今後も各種活動の取材をしたいと考えております。活動情報を事務局までご連絡願います。)



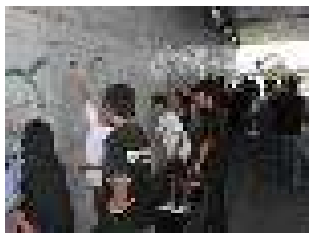
「高知県民のつどい」(10/11)で
行われた高知県防犯協会の表彰



「高知県民のつどい」基調
講演関西国際大学
桐生正幸教授



「高知県民のつどい」伊野南小の
みなさんの発表



五台山地区タウンポリスによる
落書き消し(10/12)



あさひのこどもを守る会による
パレード(10/16)



高知県安全安心まちづくり推進会議
の写真展(10/12~10/20)

知ってあなたも「安全安心通」

安全安心雑学講座(No.3)

(社)高知県防犯協会って何？

犯罪のない明るい社会の実現、防犯思想の高揚、少年の健全育成等を目的として設立された公益法人です。警察署単位に事務局を置く地域安全協(議)会等が会員となっており、高知県内で安全安心まちづくり活動の中核を担っています。

特集 安全安心インタビュー（桐生正幸さん）



桐生正幸さん（関西国際大学教授）

1960年生まれ、山形県出身。

山形県警察本部科学捜査研究所を経て、関西国際大学人間科学部教授に就任。共編著に「犯罪者プロファイリング入門」「幼い子どもを犯罪から守る！」など。犯罪の未然防止のための犯罪心理学の研究を行っている。

平成20年10月11日（土）、平成20年全国地域安全運動「安全・安心なまちづくりの日『高知県民のつどい』」の基調講演に講師として来高され、「幼い子どもを犯罪から守るために、今、私たちにできること」という演題で講演をしていただいた桐生先生に講演後の貴重な時間をいただき、「犯罪の未然防止」などについてお話を伺いました。



聞き手は、高知、土佐地区地域安全協会の地域安全アドバイザーとして活躍している横山さんと森澤さんです。

☆ドラマ『古畑任三郎』に出演しました。

森澤 唐突ですが、桐生先生はドラマ『古畑任三郎』に出演したことがあるとお伺いしましたが？

桐生 ええ、大胆にも、ゴールデンタイムの月9に再放送された古畑任三郎スペシャル（古畑任三郎 vs SMAP）の冒頭4分間に出演したんですよ。

テレビ局の依頼を受けて、「犯罪者プロファイリング」という手法で今まで放映された番組それぞれの事件を全部分析してみたんです。

24時間以内に解決した事件と24時間以上解決にかかった事件とにグループが分かれたんですが、番組の特質が分かるような結果が出ましたので、その分析結果を解説しました。

バラエティー番組でも何でもそうなんですけど、テレビに出演したのは、「犯罪心理学（犯罪者プロファイリング）の手法をきちんと使えば、ちゃんとした結果が出ます。」というのを世の中に広めたいという気持ちがあったからです。

☆犯罪の未然防止の研究を始めたのは、都市工学と教育学の研究をされている先生と知り合ったのがきっかけでした。

横山 桐生先生が犯罪の未然防止のための研究を始められたきっかけは？

桐生 東大で都市工学の研究をされている先生とある研究会で知り合ったことです。その先生は、街、特に照明をどのように変えれば犯罪を未然に防げるかという研究をしていました。

その研究で行われた実験は、世田谷区をモチーフにしたCG（コンピュータグラフィックス）でバーチャルな空間を11パターン作り、多数の被験者に犯罪不安を感じた場所を選んでもらい、そのデータを収集分析するという大変有意義なものでした。この実験結果をもとに、ある企業が、特殊な防犯灯を開発しています。

一方、また別の研究会で教育学の先生と知り合ったことで、子どもの犯罪被害の状況がわかり、子どもの犯罪被害を未然に防止するための研究をやってみようということになって6年位前に本を出したのがきっかけでした。

☆今の防犯活動では覆い切れない状態が出てきました。

活動を分担する知恵をみんなで考えることが大切です。

森澤 桐生先生が注目している最近の事件は？

桐生 それは未解決の事件です。講演でも申し上げた加古川の少女殺害事件や千葉の少女殺害事件です。何故かというと以前の事件と質的に変わってきているからです。数は減ったかもしれませんが、犯行を行う人は合理的にやり始めました。そういう意味では、今の防犯活動ではカバーしきれない状態が出てきました。

森澤 では、ボランティアの方へのアドバイスをお願いします。

桐生 ボランティアの方には、まず「ご苦労様です。」と申し上げたい。無理をしないで楽しく活動してください。ボランティアの方は責任感が強くて、本当に一生懸命に子どもの見守りなどをされています。

ですが、これからは、ボランティアの方々だけに任せるのではなく、活動を分担する知恵をみんなで考えることが大切です。

横山 本当にボランティアをされている方は、掛け持ちでいろいろな活動をされていますので、大変なご苦労があります。

☆まずは無差別に狙われる就学前や小学校低学年の子どもに対しての事前の対応が必要。一般のお母さん方に話をしていきたい。

桐生 子どもで狙われやすいのは、就学前や小学校低学年の児童です。高学年や中学生になると性の対象となって別枠として考えなければなりません。まずは、無差別に狙われる就学前や小学校低学年に対しての事前の対応が必要です。

ですから、「『安全安心なまちづくりの日』高知県民のつどい」のよう

なオフィシャルな会も大切ですが、私の本当の希望を言うと、スーパーの催事場のようなところでやりたい。ヒーローショーをやっている合間でもいいんです。

乳飲み子や小学生など、わいわい騒ぐ年齢の子どものお母さんが集まるような会を開いてもらいたいですね。臨時の託児所を設けてもいいんですが、原則会場にお母さんと子どもが一緒にいて話を聞いてくれるといった会です。

それと、今、データを取っているところで明確なことはいえませんが、お父さんが防犯に注意・関心を示しているところの方が、子どもも注意・関心を示すという相関関係が見られます。お父さんが一旦注意・関心を示しはじめると、子どももそれにつられて注意・関心を示すという傾向が出ています。

☆ 今後、女性の犯罪被害を研究してみたいと思っています。

横山 今後、桐生先生が研究してみたいテーマは？

桐生 いろいろあるんですが、女性の被害の研究が意外とされていないので、女性の犯罪被害防止の研究をやりたいと思っています。子どもの被害は、インパクトが強いので研究されていますが、女性の被害もかなり多いですね。大人だから自己責任、というわけにもいかない。

社会には、誤った性に対する情報がいっぱいあります。その誤った情報による男性の偏見が歴然とあるわけですよ。そういう偏見をもっている男性が、いっぱい増えたら、これは女性がたまったものじゃないですよ。

犯罪被害の不安の研究について先ほどお話しましたが、暗い夜道を歩いて「痴漢にあうかもしれない」という恐怖は、男性は絶対経験できないですよ。しかし、女性は若い方でも年配の方でも関係なく怖いんです。

そういうことを含めて、女性の被害の研究をキチンとやらなければならないと思っています。

横山・森澤 今日本当にありがとうございました。

～編集後記～



左から森澤さん、桐生先生、横山さん

桐生先生には、講演後でお疲れのところ、インタビューに応じていただき、感謝いたします。桐生先生は、保護者やボランティアの方に対する「幼い子どもを犯罪から守るためのアドバイス」を熱く語っていただきました。また、今後、女性の犯罪被害の研究もしてみたいとの抱負をお聞きしました。機会があればぜひ、また高知で先生の研究結果を拝聴したいと思います。

今後も桐生先生のご活躍をお祈りいたします。(亀)